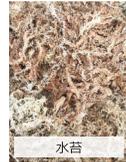


蘭の植替え

とても丈夫で長持ちする胡蝶蘭
植替えをして更に立派に長持ちさせましょう

準備するもの



- はさみ
 - ライター
- 【植替え資材と鉢】
- 水苔の場合は素焼き鉢
 - バークの場合はプラスチック鉢

植替え資材は下記のメリット、デメリットなどを参考にお選びください。
鉢の大きさは水苔の場合は一回り大きなサイズ、バークの場合は二回り大きなサイズをお選びください。
※根が傷んでいる場合は根の大きさに合わせて選びます。

?? なんで植替えが必要なの？

植替えは花を咲かせるため、根や葉を健康に元気に育てるためにとても大切です。また水苔が古く黒ずんでいたり、カビが生えていたり、気づかずに悪い環境で胡蝶蘭の苗を育てている場合もあるので気を付けて見てみましょう。
根や植替え資材（水苔・バーク等）が傷んでいる場合は「植替え」を、大丈夫な場合は「鉢増し」を行っていきましょう。



?? 植替えの頻度はどのくらい？

2～3年に1度くらいがおすすめです。植替えは気をつけて作業をしても、どうしても株がダメージを受けるものです。そのダメージからの回復に1年近くかかるので、頻繁な植替えは株の体力が落ち、花が咲かなくなってしまうので控えましょう。
株、水苔、バーク等の傷み具合も植替えするかどうかの目安です。



?? 植替えの時期はいつがいい？

蘭は寒さに弱い植物ですので、冬の植替えは避けましょう。寒い冬は成長をとめて暖くなるのに備え、栄養を蓄える時期です。しっかり休眠をしないといけない時期に株にダメージを与えたり、回復するために体力を使うと、とても負担がかかってしまいます。そのため、暖かくなりはじめる春に植替えをしましょう。



鉢増しとは？

根が元気で植替え資材も傷んでいなければ「鉢増し」といって、株をほぐさずに一回り大きな鉢に植え替えることもできます。鉢増しは根をほぐさないで、植替えに比べ根のダメージも最小限ですみます。株や根の状態を見てみて「植替え」と「鉢増し」ベストな方を選びましょう。

植替え手順

1 ライターで刃先を炙って消毒



火傷にご注意ください

2 ポット、鉢から株を出す



傷んでいる根は柔らかくスカスカしています

3 ダメになっている根は引き抜く



軽くつまむと抜けて芯が残ります

4 水苔を取りながらほぐす



元気な根を傷つけないように気を付けましょう

5 根の芯をハサミで切り落とす



悪くなった根の芯の部分を切り取ります

※1～5は「水苔+素焼き鉢」「バーク+プラスチック鉢」いずれも共通です。

水苔+素焼き鉢



なんで水苔には素焼き鉢がいいのか？

水苔はとても保水性が高いので、鉢は通気性の高い素焼き鉢を使用します。水苔でプラスチック鉢やポリポット等、通気性のない鉢に植えますと根腐れの原因になりますのでご注意ください。

メリット

- 水苔が保水性が高いので水やりの頻度が少なくて済みます。
- バークに比べ、比較的安く入手できます。

デメリット

- 水苔自体が腐りやすいので注意が必要です。
- 乾燥水苔は水に戻すのに時間がかかります。
- バークに比べ、植替えるのにコツが必要です。

6 残った根に苔を巻き付ける



株が鉢の中心にくるように均一な厚さで巻き付ける

7 新しい鉢に植え込む



鉢より一回り大きいサイズにまとめるのがポイントです

8 完成



一番下の葉のすぐ下に水苔がくるのが理想です

バーク+プラスチック鉢



なんでバークにはプラスチック鉢がいいのか？

水苔とは逆にバークは通気性が高いので、プラスチックの鉢を利用して湿度を保てるようにします。

メリット

- バークは水苔に比べ、腐りづらいので植替え頻度が少なくて済みます。また根腐れしづらいです。
- 自生する胡蝶蘭は木に着生しているもので、自然に近い状態で栽培できます。
- 土と同じように植えられるので、水苔に比べ簡単に植替えられます。

デメリット

- 水苔に比べ、鉢の中の乾き具合が分かりづらいです。
- 通気性が高いので、夏場は水切れしやすくなるので注意が必要です。

6 鉢底にバークを敷く



株や残った根のサイズにより高さを調整します

7 鉢の中心に株を置き 周りにバークを入れる



元気な根を傷つけないように気を付けましょう

8 完成



鉢より1cm程下げてウォータースペースとして残します